



大阪市立大学  
工学部同窓会

# 同窓会だより

大阪市住吉区杉本 3-3-138

TEL 06 (6607) 8 3 7 3

FAX 06 (6605) 2 7 6 9

発行人 行藤 三男



森幹雄 作

## 〈 目 次 〉

|                        |    |                            |    |
|------------------------|----|----------------------------|----|
| 表紙絵（奈良・今井町の河合家住宅）…………… | 1  | 学科の近況とクラスだより（情報）……………      | 11 |
| 行藤会長・山田名誉会長の挨拶……………    | 2  | 〃（生応化）……………                | 12 |
| 工学研究科スカラシップについて……………   | 3  | 環境都市工学科（新学科）の近況……………       | 13 |
| 平成14年定年恩師の寄稿……………      | 4  | 平成14年工学部卒業生名簿……………         | 14 |
| 学科の近況とクラスだより（機械）……………  | 4  | 平成14年工学研究科（前・後博）修了生名簿…………… | 15 |
| 〃（電気）……………             | 5  | 平成14年工学部入学生名簿……………         | 16 |
| 〃（応化）……………             | 6  | 平成14年工学研究科（前・後博）入学生名簿…………… | 17 |
| 〃（建築）……………             | 8  | 工学部同窓会事務局の年報……………          | 18 |
| 〃（土木）……………             | 9  | 平成15年評議員会案内・工学部電話帳・後記…………… | 19 |
| 〃（応物）……………             | 10 | 平成15年“工学部同窓会の集い”の案内……………   | 20 |

## ごあいさつ

会長 行藤 三男



工学部同窓会の皆さんこんにちは。益々ご健勝にてご活躍のこととお慶び申し上げます。

工学部同窓会長をお引受けして早いもので、はや2回目のご挨拶をさせていただくことになりました。

この1年間の激変はスピード面ではすさまじいものでした。経済面では、10数行の都市銀行が4大銀行に集約されたり、10月には日経平均株価が20数年前の水準にまで落ち込んだり、中国を除いて世界規模の株価暴落の様相であります。世情面では昨年9月の米中樞同時テロに始まるアフガニスタンのタリバン政権の打倒と復興、中東でのイラクの無条件査察受入れに対する米国の武力行使の懸念、20数年間否定し続けてきた北朝鮮の拉致問題や核開発問題等々。

しかしながら、自然科学面では、鳥津製作所の田中耕一さん、東大名誉教授の小柴昌俊さんのノーベル賞受賞があり、日本国民にとってとてもうれしいニュースで、特に鳥津の田中さんは、今迄と違って学者以外から選ばれたことで、我々にはより身近で親しさを感じます。我々技術者にとって大いなる励みになることでしょう。

20世紀は、いわば「集団の時代」で国家や企業が「主」で、それを構成している個々は「徒」でしかありませんでしたが、これからの21世紀の日本は、明確な価値観をもった「個」があって集団がある「個の時代」になると思います。

20世紀の日本人にとって仕事とは、会社のため、国家のために「私」を捨てて取り組むべきものでしたが、21世紀は自己実現を果すべく自分の哲学や価値観を具現化するために働く様になると思います。

「自分はどう云う生き方をしたいのか」「どう云う人生を生きたいのか」遅ればせながら、最近とみに自己反省をしながらの今日この頃です。

(電気・昭和36年卒・関西国際空港熱供給(株)常勤顧問)

### 表紙絵作者の略歴

- 1951年：大阪市都島区生れ、
- 1973年：大阪市立大学工学部建築学科卒業・(株)石本建築事務所入社、
- 1990年：(株)MANプランニングオフィス設立、
- 1997年：森 幹雄建築工房設立、
- 2002年：武庫川女子大学生活科学部助教授就任。

## 工学研究科・工学部の近況

名誉会長 山田文一郎



同窓会会員の皆様には、如何お過ごしでしょうか。日本国内さらには世界中でいろいろなことが起こっています。急激な変化が連続して起こると、新しい時代の先触れとなるかもしれないとは思いますが不安も伴います。大阪市立大学工学部では、従来の8学科が平成13年から

は10学科(機械、電気、応用化学、建築、土木、情報、生物応用化学、知的材料および環境都市)になり、新しい建物(G棟)が加わりました。しかし、教員数と学部学生数に変化はなく学科の規模は小さくなっています。一方で、大学全体で大学院部局化が行なわれ、さらに平成14年4月からは工学研究科の再編が認められスタートしています。これにより、大学院での教育・研究を重視することのできる体制となり大きな責任を感じずにはいられません。大学院の再編は従来の8専攻を4専攻(機械物理系、電子情報系、化学生物系および都市系)に束ねるものです。これまでの市大工学部の大きな特徴である少人数教育を維持し、大学院はより広い範囲の教育・研究を強化して新しい工学研究科を目指しています。再編により、前期博士課程(修士課程)の学生定員は増えましたが、後期博士課程(博士課程)の定員は変わりません。しかし、再編は私たちが計画したことであり、特に後期博士課程の充足率の維持は常に気をゆるめることのできない問題です。学位取得は学生諸君ばかりでなく社会人の方々にも身近なものとなっていますので、同窓会会員の皆様にもこの点は是非ご理解を頂きたいと思っております。

地方自治体の財政状態が新聞、テレビ等で報道されますが、大阪市の新行財政計画により工学部・工学研究科でもここ数年で10%の人員削減となります。さらに、国立大学の独立行政法人化が平成16年度に実施されますが、このことが市立大学さらには工学研究科・工学部に大きな影響をおよぼすことは避けられません。一方で、旧物理・化学実験棟を改装した大阪市立大学インキュベータが今秋より発足しています。12室のオフィスと共同利用室(2室)があり、学内の学術雑誌、LAN等が利用でき24時間出入りのできるユニークな施設となっています。工学研究科教員の協力で、これからの2年間で成果に結びつくことが期待されます。このような状況の大きな動きを、見据えて今後の考えや対応を考えねばなりません。同窓会会員の皆様のご理解をよろしくお願い致します。

(工学研究科長兼工学部長・工学研究科教授)

### ★ 同窓会報の表紙絵をご投稿下さい。

同窓会報に花やぎを添えるため、当同窓会員が作成の絵画を表紙絵として掲載することになり、本号では、森幹雄氏にお願い致しました。次号の会報に掲載する表紙絵をご投稿下さい。

## 「大阪市立大学工学研究スカラシップ」発足！

角野 昇八



みなさまご存じのように、大学を取り巻く環境が日々、大きく激動しています。大学自身が積極的に自らの足下を見直し、時に新しい試みに挑戦することも求められています。

このような情勢もあり、平成13年度に「大阪市立大学工学研究スカラシップ」

制度が発足しました。当時の福田武人工学研究科長の発案で、その趣旨は「工学研究科の若手教員による先端的あるいは萌芽的研究を奨励するとともに、そのことを通して工学研究科の教育・研究の格段の充実と飛躍を図ること」にあります。当時、予算委員会委員長としてこの制度の設立に関わった者の一人として、ここにその経緯などについてご案内させていただきます。

募集対象は、文部科学省の科学研究費助成金などの各種公募に研究代表者として応募した工学研究科の助手から助教授の教員（年齢不問）で、毎年最大3名が選出され、一人200万円以内の校（公）費が研究科予算から研究助成されます。平成14年度からは、この年度から新たに設けられた「工学研究科長裁量経費」の一部がこの研究助成に充てられています。

審査は、応募書類と申請者自身のプレゼンテーションによって行われます。この際、特に本スカラシップに申請する動機に重点をおいて選考され、選考された教員には成果報告書などの提出と、報告会での工学研究科構成員への成果披露が義務づけられています。

審査委員は、平成13年度の初年度は10学科より各1名選出された10名の教授と評議員1名および研究科長で構成し、委員長は研究科長がつとめました。専攻編成が成った平成14年度は、4専攻より各1名選出された4名の教授と評議員2名の他に、外部評価を求める趣旨から、工学部同窓会長推薦の工学部卒業（あるいは工学研究科修了）の学外の方1名を加えた計7名で構成しました。平成14年度は、この学外の方は行藤三男工学部同窓会長ご自身にお越し頂きました。

このようにして募集、選考、採択された方と研究テーマ、助成金額は以下のようであります。

平成13年度；

- ・加藤岳生氏（応用物理学（現電子情報系）専攻・講師）  
「微小ジョセフソン接合を利用した量子素子の非平衡時間の理論的評価」（148万円）
- ・長崎 健氏（生物応用化学（現化学生物系）専攻・助教授）  
「遺伝子核移行促進による非ウイルスベクターの高効率化」（200万円）
- ・重松孝昌氏（土木工学（現都市系）専攻・講師）  
「PIV法を用いた流れ場および波動場におけるポーラスメディア内の流速の計測とそれによる乱れの生成・減衰機構に関する研究」（193万円）

平成14年度；

- ・福田常男氏（電子情報系専攻・助教授）  
「グラファイト層へのSTMによる原子ドーピングの研究」（200万円）
- ・金 大貴氏（電子情報系専攻・助手）  
「化学的方法により作成した半導体量子ドットの表面構造制御と光機能性」（170万円）
- ・北村昌也氏（化学生物系専攻・講師）  
「絶対嫌気性細菌の酸素防御に関する分子生物学的研究」（200万円）

本助成金は公費であるため、現状では研究発表の旅費などのために使うことは認められていません。できますれば工学部同窓会からのご援助を頂き、研究発表などにも助成が可能な制度とすることができればと関係者では希望しております。

審査会と成果発表会への出席を機会にして、初めて他専攻（学科）の方の研究内容を深く知ることができるなど、「スカラシップ」制度の本来の趣旨以外の効果もあるように思えました。研究科内のさらに良好な研究・教育環境を実現し、また、ますます活性化させるためにもこの制度の末永い継続と発展が望まれます。この制度への工学部同窓会のみなさま方の深いご理解と熱いご支援を是非お願いするものです。

（工学研究科都市系専攻・教授）

### 生まれ変わった

#### 大学院工学研究科

大学院工学研究科は、これまでの8専攻から、下記の4専攻に再編・統合されました。

今回の改革により、各専攻の領域が拡大され、次世代を担う高度な専門職業人や、研究者を育成できる教育内容の充実と、研究の活性化が期待されています。

また、同時に、前期博士課程の学生定員が大幅に増やされると共に、後期博士課程の社会人特別選抜制度（企業や官公庁に在職中の社会人が正規の大学院生として入学出来る制度）の利用も増えつつあります。

- |           |               |
|-----------|---------------|
| ○ 機械物理系専攻 | — 熱流体工学系領域    |
|           | — 材料システム系領域   |
|           | — 材料物理系領域     |
|           | — 応用数学解析（研究室） |
| ○ 電子情報系専攻 | — 電子エネルギー系領域  |
|           | — 物性物理系領域     |
|           | — 情報通信系領域     |
| ○ 化学生物系専攻 | — 物質化学系領域     |
|           | — 分子化学系領域     |
|           | — 生物工学系領域     |
| ○ 都市系専攻   | — 計画系領域       |
|           | — 環境系領域       |
|           | — 構造系領域       |

## 随想

岡本 次郎



四月に定年退職しました。現在は週一度、大阪教育大学に非常勤講師として教えに行っています。在職時とは異なり、妻との繋がりが非常に大きくなっていることに気がつきました。妻は家事以外に、絵画や生花や絵手紙など、幅広く自分の趣味に毎日を楽しんでいます。それ

れに引き換え、これとって趣味のない私は、妻の趣味の手伝いをさせられる羽目になります。この度も、京都の新風館で草月の生花展があり、彼女の出品する竹を使った作品の加工をやらされました。竹切りや、竹の両面をはつって梯子状の形にする作業です。工学部出身の私には、この仕事はお手の物ですが、それを組み込んで作られた作品の芸術的価値については、全く分かりません。理系頭脳が悩むところです。

草月流生花の目指すところは、家元の勅使河原茜さんに言わせると、「無機質、無性格で巨大なだけの空間にも、生命の息吹をもたらす」ことなのだそうです。花を生けるといふ範疇を抜け出して、造形作品を作るといった方向へ変身しているようです。全ての芸術や文化は日に日に新しいものへと変身し、そうすることによって新しく生き返っています。

私が学生の頃には、工学とは「人に役立つものを作る学問である」と教わりましたが、現在はそれに、「環境を破壊しない」という文言を付け加えるべく変身する必要を強く感じます。

7年前に市大の工作技術センター発行のFABLICAに理学部の木下隆正先生が、「コップ一杯の水」という表題で、コップ一杯の水を大洋に均一に混ぜると、世界の何処においても、すくったコップ一杯の水にばらまかれ水の分子600個ほどが検出される、と言った記事をお書きになっておられました。この記事は私にとって衝撃的なものでした。超新星の爆発の結果として、数十個のニュートリノが地球上で検出されればノーベル賞ものです。それよりも数千倍も数万倍も多い環境汚染物質が地球上の何処においても検出される状態になっているのです。

最近、女性に子宮内膜症が多発しています。環境ホルモンの影響ではないかと言われていますが、これは人類存続にとって危機でもあります。天に向かって環境汚染物質を撒き散らしている今の人類の生き方は改める必要があります。人類の将来について、カタストロフィー（短時間で起こる急激な大変動）が起こるのではないかと、科学者としては興味を持って、一市民としては恐れを抱いて過ごしている今日この頃です。

(元情報工学科教授)

技術の開発研究」に取り組んでいます。具体的内容は、ホームページ (<http://www.mech.osaka-cu.ac.jp>) をご覧下さい。

最後になりましたが、同窓会の皆様、今後とも一層のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

(工学研究科教授兼機械工学科主任教授)

## 機械工学科の近況

脇坂 知行



同窓会の皆様には益々ご健勝、ご活躍のこととお慶び申し上げます。本年度学科・専攻主任を担当しております脇坂です。一昨年10月に赴任してから2年の経ちましたが、勝手の分からないことが多く、教室の皆様のご協力を頂きながら務めております。

大学は、定員削減、外部評価、技術者教育認定制度(JABEE)への対応、産学官連携の推進等、教育・研究面で、大きな変革が要請されております。大学院工学研究科は本年4月に再編され、機械工学専攻は機械物理系専攻(Department of Mechanical and Physical Engineering)と名称が変更りましたが、その構成は従来と変わりません(機械工学、知的材料工学、共通講座の教員により構成)。再編に伴い、機械物理系専攻の入学定員は、前期博士課程30名、後期博士課程9名に増え、今年度の前期博士課程(修士)への入学・進学者は34名に増えたのですが、後期博士課程は3名(いずれも社会人)であり、大学院での研究推進のため、より多くの方に入学して頂きたいと願っています。企業や官公庁等に在職中の社会人が後期博士課程に入学できる社会人特別選抜制度がありますので、卒業生の方には、是非この制度を利用して頂くよう、お勧め致します。

今年度の機械工学科の入学学生は33名です。一方、卒業予定学生の進路ですが、現在のところ4回生31名のうち、大学院進学者が21名で、企業への就職内定者が7名です。また、前期博士課程2回生31名のうち、企業への就職内定者が26名で、残りは公務員希望者3名(内定者1名)と進学希望者2名(他大学院への進学を含む)です。不況と言われていますが、企業への就職内定は何とか順調に進んだものと思います。

人事面では、本年4月、生産加工工学分野の故上神謙次郎教授の後任に、佐藤嘉洋助教授が昇任されました。

また、本年、下記の先生方が顕彰されました。ここに紹介させていただきます。

- **東恒雄教授・脇本辰郎助手**：平成13年度日本機械学会賞(論文)、受賞論文名「乱流遷移による放射状自由液膜流のせん孔現象」
- **脇坂知行教授**：平成13年度日本機械学会エンジンシステム部門賞(研究業績賞)、受賞研究名「エンジンシリンダ内における燃料噴射、混合気形成、および燃料の数値解析に関する研究」
- **吉岡真弥講師**：日本レオロジー学会奨励賞、受賞研究名「ガラス状高分子の大変形機構に関する研究」
- **野邑奉弘教授・西村伸也助教授ほか16名**：NPO大阪湾研究センター・環境共生型まちづくり研究委員会、大阪湾ベイエリアまちづくりプラン優秀賞、受賞提案名「海と自然環境をとりこんだまちづくり」

なお、機械工学科では、従来からの研究に加えて、分野横断研究テーマとして「循環型社会の構築に寄与する基盤機械

(左段下部へ)

## 「六機会」だより

成実 哲郎



昭和23年市立都島工専機械科に入学。都島区にあった旧校舎は空襲で焼失し、戦後3年市内の復興は未だ進まず、JR環状線桃谷駅から徒歩7分の「桃丘小学校」跡が校舎であった。此の学校は昭和20年3月14日と6月15日の2回の空襲で校下の殆んどが焼失したものの、校舎は無事で、敗戦後アメリカ陸軍第22野戦病院衛生隊に接収され宿舎として利用されていた。<sup>注)</sup> 占領軍撤退後、都島工専は私達が卒業する26年迄ここに入っていた。今は天王寺図書館、桃丘会館になっていて「大阪市天王寺第六尋常小学校、桃ヶ丘国民学校跡」と云う記念碑があるのみで、都工専の往時を偲ぶものは残っていない。卒業当時32名であったが、半世紀過ぎた今では逝去7名、不明2名と淋しくなった。機械科第6期生であるところから「六機会」と命名した同窓会を毎年5月に開催し親交を深めている。平井、花房、東田先生にもご参加いただく20名前後の集いである。会社勤め、住宅ローン等から開放され、時間的余裕も出来、新たな生きがいや役割を発見し、利害関係の無いもの同士が頑張っている話をはじめ、旅行、趣味、ボランティア、病気など好き勝手に話し合っ、楽しい時間を過している。(注：赤塚康雄「消えたわが母校」P.56。 (機械・昭和26年卒)



## わが同期会

秋山 高治



昭和31年、扇町学舎の理工学部機械工学科を巣立って以来の我が同期会は、来年には14回を数える粘りを見せております。鬼籍へ移った3名を欠く34名が日帰りや一泊旅行、宴会などを催し、一部は工学部同窓会の懇親会に便乗、旧交を暖めて参りました。戦中戦後の苛酷な生活条件と闘ってきた者、殆どが古希前後に巡り会える次の同期会は意義深い集いになりそうです。頭を絞る参加容易な企画で全員参加を実現したいものです。

会の運営は幹事役を固定せず、当時の出身研究室単位の輪番制とし、行事開催の都度、参加者から会費を徴収し諸費用に当て、会計の過不足分は次回へ繰り越すことにしています。これまで参加者が恩師ともども25人を越す場合なら盛会の部類に入る状況です。

以前、還暦の時期に有志が音頭をとり、学生時代の懐かしい写真を編集、近況や写真の投稿を募り、〈寿・還暦／願・健康〉と題した小冊子を作り、全員に配布、互いのライフスタイルを確かめ、喜び合いました。

人数は確実に減りこそすれ増えることのない、この種同期会の、いつか最後のジョーカーを引くことになる幹事役の小さな危機管理を大げさに心配する昨今です。(機械・昭和31年卒)



## 電気工学科

### 電気工学科の近況

青笹 正夫



卒業生の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。昨年度の主任の志水先生のあとを4月に引き継ぎましたが、早いものです。すでに半年以上経ち、今日は银杏祭の最終日です。今年の4月には大学院工学研究科が再編され、これまでの電気工学専攻、情報工学専攻、応用物理学専攻の3専攻は電子情報系専攻となりました。大学も大きく変わりつつあります。これまで国内で少人数教育を誇った我が市立大学にも教員定数削減の波が押し寄せています。現在電子工学科は電磁気学分野(鈴木、南、武智)、電子回路学分野(志水、高橋、重田)、材料計測工学分野(青笹、草開、前川、田中)、光電子工学分野(松下、中川、宮崎)電磁機器工学分野(辻本、村治)の5分野15名ですが、宮崎先生は海外に出て研究しておられます。10月には村治先生が講師に昇任され制御工学の講義を担当されるようになりました。

かつて大学紛争を経験された先生方も次第に少なくなってきました。来年の春には志水先生と前川先生も退職なさることになっております。あと数年もすれば電気工学科の教員の顔ぶれはおおいに変わることになります。

さて、今年の4回生の就職、進学状況ですが、現在のところ進学決定20名、就職内定12名となっています。また修士2回生については17名が就職内定となっています。卒業生の皆様のご活躍のお陰で市大電気工学科の学生は、今でもそれなりに評価をしていただいております。今年の就職に関してもさほど厳しくはなかったと思います。なお、多くの卒業生にリクレーターとして訪問していただき、熱心にご説明をいただきました。有り難うございました。しかしながら、多数の卒業生のご要望にお応えできませんでした。誠に申し訳ありませんでした。

これから大学は推薦入学試験、センター試験、一般選抜入学試験とあわただしくなっています。

今年の電気関係学会関西支部連合大会は近畿大学で開催されますが、来年は市大が開催校ということになり、電気工学

[次ページ左上へつづく]

科と情報工学科がお世話をするようになっております。平成15年11月8、9日になっておりますので、是非今からご計画をいただき母校で発表をしていただきたいと思います。一人でも多くの卒業生の皆様にお会いできることを願っております。我々教員一同、これからも一生懸命教育、研究に励んでまいりますので、引き続き卒業生の皆様方のご支援をお願い申し上げます。末筆ながら卒業生の皆様のご多幸とご活躍をお祈りいたします。

(工学研究科教授兼電気工学科主任教授)

### 「扇友会」

高橋 慧

時は過ぎてしまえば早いもので、卒業後半世紀近くにもなり、同窓生はすでに古希を迎える今日この頃となりました。

卒業後散りじりバラバラになっていた昭和31年電気工学科卒業の仲間25名が、還暦近くになってから誰からともなく「一度同窓会をやろうや」と言う掛け声がかかり、それから毎年、我々の学生時代に勉学も遊びもご指導

頂いた当時の助手の先生方を含め、年に1回、20名前後の集いを持つようになり、この会合をいつの頃からか「扇友会」と呼ぶようになりました。

しかし、2回目位迄は東京在住者も含め、遠方からも馳せ参じてくれましたが、その後殆どの方がリタイアしてしまうと、急に集まりが悪くなり、最近では大阪近郊に住む数名のみとなりました。その替わり中身がうんと濃くなり、本年も泊まりがけを含めて3回も集まり、白髪頭同士が学生時代に戻って快気炎を上げております。

(電気・昭和31年卒・自営業)



## 電気昭36卒同期の交遊会

矢野 孟彦

卒業以来、正月3日の新年会が定例になっています。在学時代を旅行にキャンプにと共に楽しんだ仲間を核に連絡のつくメンバーで集まり、ここ15年位前からは奥本先生の参加も頂いております。

20代の頃は誰かの帰省とか出張来阪があると集まって呑み会、在阪組では山歩き、結婚したと云っては晴着姿の嫁さんを連れてた新年会などが懐かしく想い出されます。しかし、30代のいつの頃からか皆企業戦士となり、新年会だけとなっていました。

還暦を過ぎ、時間に余裕が出てきたここ2～3年は電子メールで連絡が容易になったこともあり、交遊会は一層盛んになってきております。今年の例を紹介しますと、何れも10名を越える参加で、新年会、工・懇親会、金剛山雪中登山、伊豆旅行、納涼の集い、霜月の集いなどがありました。



また、今年から関東在住組でも上記に加えて機械同期卒も誘っての新年会、夏のキャンプ、ゴルフと新たに交遊会をスタートさせました。

入学以来45年間に亘る同期の交遊会は益々掛替えのない楽しみとになってきております。

(電気・昭和36年卒)



## 応用化学科

### 応用化学科の近況

小槻 勉



卒業生の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。さて、何かと変化の激しい時代ですが、本学の卒業生の皆様はこれを好機とらえて活躍しておられることと推察しております。

さて、応用化学科の近況ですが、学科体制の変化はありません。昨年度の第17

号「同窓会だより」で詳しく述べられていますように平成13年4月から教員は学部ではなく大学院に所属しています。ま

た、平成14年4月からは更に一步進めた形で大学院の再編を行い、現在(旧)応用化学科・応用化学専攻の全ての教員は、化学生物系専攻所属になっています。実際の運用を開始してまだ半年ですので円滑な運営を定期的に行うためには今しばらく時間がかかりそうです。この制度変更の際に、新しい時代に向けて逞しい学生を育てるために、従来にも増して様々な工夫をしています。学部(応用化学科)のカリキュラム、講義形式、卒業論文指導、大学院(化学生物系専攻)のカリキュラム、研究指導など小規模大学である本学の長をさらに発揮できるような体制になっています。卒業生の皆さんのスキルアップやキャリアアップに役立ちたいとの願いか

ら社会人入学制度と学位（博士号）取得プログラムを更に充実させました。従来はこの機会が年に一度（3月入試）だけでしたが、平成14年度から新たに9月入試を導入しました。これで卒業生の皆さんを始めとして必要性を感じ、勉学意欲のある社会人の皆様に便利で、より良き機会を提供することができるようになりました。この社会人入学制度を利用する場合は、簡単な資格検査が必要ですが、化学生物系専攻の教員に相談して頂けば適宜、迅速に対応できる教務体制になっていますので、気軽に問い合わせさせて頂きたいと思っています。

このような大きな流れの中で化学生物系専攻・応用化学科の教育・研究分野を更に充実するために助教授職を公募し、平成14年10月から辻幸一（つじ こういち）助教授が新しく着任されました。専門は、分光分析化学、特にX線や電子線を用いた微量分析、表面、薄膜などの状態分析です。これで化学に必須の（機器）分析化学分野の教育をより一層充実させることができるようになりました。

このように教育・研究の両面で充実させ続けていますので、今後ともご支援の程宜しくお願い申し上げます。

（工学研究科教授兼応用化学科主任教授）

## 同期会報告

廣岡 孝一



昭29は「招フク」と読めるところから、15年前に文系学部の同期卒業生が「招福会」を結成し、工学部も5年前に合流して全学部を擁する会に発展した。毎年秋には総会を開催するが、多いときは100人以上も集まり、準備のために各学部からなる幹事会を毎年4回も開催して、賑やかな旧交を温めている。

招福会には「歴史散歩の会」もあって、平成4年のスタートから今年末で114回を数え、近畿一円は難所を除き殆ど制覇した。また45回目と100回目には長江三峡下り・万里の長城・シルクロードまで足を伸ばした。

理工学部の同期会としては扇町校舎に因んで「扇友会」があり、3～5年に一度、誰かが言い出し兵衛となって食事会や一泊旅行を開催し、近況を確かめ合っている。

我々は全員古希を通過し、殆どがリタイヤして自尊自適の生活に入り、同じ時代を背景として世の移り変わりを論じ合える、言わば「限定会員」である。会うたびに、これらの会に感謝し、元気に顔を出せる幸せを噛み締めている。

（応化・昭和29年卒）



〔昭和29年卒全学部同期会〕

## 応化49年卒同窓生近況

渡辺 敏郎



応化49年卒の渡辺です。我々の大学時代は、70年安保、万博、大学闘争、オイルショック等々、高度経済成長がもたらしたものを正と負の両面で受ける時代でした。就職先は、化学系企業はむしろ少なく、商社が多かったというのも当時を象徴していました。「産学連携紛砕」を叫び大学全体が悶々としていたのは、つい30年前のことでした。現在では「産学官連携強化」に莫大な予算が投入され、みんな必死になっている姿に時代の移ろいを感じざるを得ません。かく言う小生も、終身雇用制崩壊の煽りを受けて、現在は大阪TLOで大学発の技術シーズをビジネス化する仕事をしているというのは何と云う皮肉な現実、人生なのでしょう。最近の学生諸君は、今の時代をどのように読んでいるのでしょうか。よろしかったらメールください。メル友として意見交換しましょう（toshirowatanabe@hi-ho.ne.jp）。

今年7月20日に開いた、昔を懐かしんでの（くそ暑い）屋上ビアガーデンでの同窓会では、同期生30名のうち数名の音信不通のみで、他のメンバーとは変わらぬ「絆」を相互に実感し合った次第です。学友とは、時空を超越した、本当にいいものですね。

（応化・昭和49年卒）



〔平成14年キャンパス交流会でのミニクラス会〕

## 母校ご来訪時には 工学部の“談話室”へ

場 所：工学部A棟2階（北側）  
工学部学術情報交流センター  
時 間：10：00～17：00  
（但、土、日、祝は閉館）  
利 用：待合せ、打合せ、ご休憩等



建築学科の状況

杉山 茂一



卒業生の皆さん、お元氣でご活躍のことと存じます。今年度は6月22日には大阪で、9月7日には横浜で、学科主任として建築会の集まりに出席させていただきました。どちらも盛況で、常連の顔、懐かしい顔にお目にかかり、楽しいひとときを過ごさせていただきました。

今年度から大学院の専攻が再編され、建築学専攻と土木工学専攻が統合されて、都市系専攻が発足しました。カリキュラムが変わり、学生定員も従来の1.5倍に増えました。そのため、従来の少人数ゼミ形式と異なり、学部講義並みの受講生の集まる講義もあります。ちなみに私の講義は、受講生15名のうち4名が旧土木工学専攻の学生でしたが、自ら講義内容の工夫が必要になります。大学院入試も都市系専攻で一本化されるなど運営も変わり、旧土木工学専攻の教員との会議や交流が多くなりました。初年度で手さぐりの状態ですが、幅の広い視野をもった人材育成に向けて教員一同頑張っております。

激動する社会情勢のなかで、大学も荒波にもまれています。以前ベスト30と呼ばれていたCOEに向けては谷池義人教授を中心に準備中。JABEEへの対応に向けては、谷口与史也助教授が中心になって精力的に準備作業を行っています。ほかに、産官学連携への要請にどう応えるかなど、将来の方向についての課題山積です。ともすると波に飲み込まれそうなこの頃ですが、こういうときこそ大学人としての見識が問われるときと痛感しています。

今年度は教員の異動はありませんが、建築論の非常勤講師をお願いしていた大島哲蔵先生が6月に急逝され、急遽、福田晴虔先生に代講をお願いし、久しぶりに市大の教壇に立っていただくという一幕もありました。

学生の進路は、学部卒業予定者32名のうち、大学院進学17名、就職内定11名。就職先内訳はゼネコン3名、住宅メーカー3名、材料メーカー、教員、設計コンサル各1名、その他2名。大学院前期博士課程は修了予定者18名のうち、後期博士課程進学1名、就職内定9名。就職先内訳はゼネコン5名、設計コンサル2名、その他2名。学生の就職活動にあたっては、卒業生の皆様のお力添えをいただきありがとうございました。10月末現在で12名の未定者がいますが、自ら態度を保留している者も多く、学生の気質が変わってきていることを感じます。

大学は変貌しつつあります。今後ともご支援よろしく願いいたします。  
(工学研究科教授兼建築学科主任教授)

ゴキブリ会のこと

岩本 尚三



建築学科昭和32年卒グループを誰が名付けたかゴキブリ会という。

建築学科卒業生全体の同窓会たる大阪市大築会のなかで、昭和32年卒の5期生は、天才は輩出しなかったが陽気と元氣が売物で自他ともに男振りがはやされた。そこで5期生のゴキと男ブリのブリが繋ってゴキブリ会になったのではないかとと思っている。同窓会への集中度の高揚と低下は世の習いともいえるが、ゴキブリ会にはそんな波動がない。毎年1~2回、恩師を招いて酒杯を傾け元氣を蓄えている。そして宴の本締めにもいつも歌うのが「建築会学生歌」である。

在学中、扇町学舎の製図室で徹夜するとき、三橋美智也や春日八郎などを歌っていたが、自らの歌を作ろうということになって数人が詞を競作した。そのなかから私の詞が選ばれた。これに滝本が曲をつけ、森がガリ版を切った。詞は4番までであるが、ここに1番を紹介する。

大淀の由緒き恵流に／新鋭の氣迫を秘めて／探求むべき標榜遠くも  
／建築の技道開けたり／おお建築我らの道ぞ。

(建築・昭和32年卒、池田建設(株)顧問)



建築学科昭和41年入学同窓会

田村 博美



私達の学生生活は、合格発表が扇町校舎で教養、専門教育は杉本校舎の時代です。先日表題の同窓会が行われました。だいたいこのような表題には〇〇年卒同期会などと記されることが多いと思います。

私達の時代は日本の価値観が大きく変貌しました。まず、戦後ベビーブーム第1号(団塊の世代)、高度経済成長後期、大都市への人口集中と建設ラッシュ、その象徴として大阪万博、そして大学紛争など多くのキーワードがあげられます。日本の戦後復興と近代化が急速に進行し旧来と新時代の価値観が相克する時代であったといえます。

なかでも大学紛争は私達が経験した大きな遺産(正か負か?)です。自分の頭で世の中を自由にかつ柔軟にとらえる力がついたのも事実です。しかし、同期のまとまりという点では、32人入学したものの同期卒業は14人、留年が18人、上からの留年が8人、さらに大学紛争で4回生の殆ど3分の2は授業がなく、集中講義で卒業させられた状況でした。そのため、まとまる要素がなく、長い間同窓会



のない状態が続き先輩後輩の会を羨ましく思いました。

その後15年ほどたってから誰とはなしに集まりができ、現在の変則同年入学の同窓会ができあがりました。ほぼ毎年12、3人参加しますが、バブル経済を牽引し、現在の社会基盤を創ってきた、役所、ゼネコン、設計事務所、コンサルタントなどで活躍中の面々です。

最近の話題は破天荒な大学時代の思い出と退職後の人生、子供の結婚問題などです。同窓会を最後の一人まで続けることを誓い合っ  
て散会しました。  
(建築・昭和41年入学、(株)オオバ)



## 土木工学科

### 土木工学科の近況

北田 俊行



昨年(平成13年)10月からの土木工学科の近況を報告させていただきます。

皆さんもご存じのように、土木工学科は、現在、構造工学、橋梁工学、土木材料・河海工学、土木計画学、および地盤工学の5つの研究分野で構成されています。人事に関しましては、この4月に、

地盤工学分野の大島先生が助教授に昇任されました。土木工学科の教員定員は14名で、現在の構成は教授5名(定員5名)、助教授4名(定員5名)、講師1名(定員2名)、および助手4名(定員2名)となっております。ところが、土木工学科の定員が平成21年4月には12名になる予定になっております。

昭和51年に退職されました倉田宗章名誉教授が、昨年の12月に84歳でご逝去されました。先生は、土木工学科の創設当時である昭和29から22年間にわたり、土木工学科の教育・研究に大きく貢献されました。ここにご報告して、皆さんとともにご冥福をお祈りしたいと思います。

この4月から我々教員の所属が大阪市立大学工学部土木工学科から正式に大阪市立大学大学院工学研究科都市系専攻になりました。これに関連して、大学院の再編が行われ、研究・教育体制および入学試験の方法等が大きく変わりました。

今年の土木工学科の新入生は現在31名(内女性2名)で、都市系専攻前期博士課程の新入生は土木系で31名(内女性が3名)、その中で土木工学講座所属が20名(内女性2名)、後期博士課程の新入生は土木系で7人(内社会人コースは4名で1名は10月入学)です。

今年の就職活動は、景気の関係で、かなり厳しいものとなっています。学部卒業予定者は39名で彼らの進路の内訳は、コンサルタント2名(大学院6名)、建設会社6名(2名)、鉄鋼、橋梁関係0名(5名)、公団2名(2名)、公務員4名(5名)、進学20名(2名)、および未定・その他5名(6名)となっています。大学院前期博士課程修了予定者は26名で、かれらの進路の内訳は、学部の内訳と並べて、

( )内に示すとおりであります。後期博士課程の修了予定者(社会人コースを除く)1名の進路は、鉄鋼・橋梁関係の研究所に内定しています。大学院前期博士課程への進学者が

増えているのは、公務員への就職がうまく決らなかったためによる進学が増えているためであります。彼らが2年後の修了時に再び公務員への就職がうまくいかない場合、就職先を探すのがかなり難しくなることが予測されます。その傾向が、今年の就職活動に見られました。

最先端の研究を行うための大学院大学への大きな再編、および土木業界のこれからの動向が不明確になりつつある厳しい状況において、これからの土木工学科の教育・研究のとるべき方向を模索する上で、卒業生各位のお知恵もお借りできればと考えております。

(工学研究科教授・土木工学科主任教授)

### 札幌土木学会全国大会時の同窓会

井上 武司



去る9月25日、札幌すすきにある漫遊亭で華やかに同窓会が催されましたので、その様子をお知らせします。

この同窓会は札幌で土木学会の全国大会が開催されたのに合わせて、その出席者と北海道有恒会の有志とで懇親会を開いたものです。急な呼び掛けで北海道側の参加者は6名でしたが、鬼頭先生の御尽力もあり約30名の学生

を含む総勢59名のにぎやかな会となりました。

石黒有恒会支部長(昭29年経済卒)の乾杯を口切りに北田先生の近況報告を混えた御挨拶で開宴されました。

その後、各位からの一言をもらいましたが、小生の「お年の順から」という不用意な発言を園田先生に修正していただき老若男女入り乱れてのスピーチラリーが繰り広げられました。学生部長の高田先生が学生達の輪の中で語らい、また、笑顔が爽やかな女性の姿が目立つ等、時代の移ろいを感じつつも同窓の和やかな時が流れま



[次頁へつづく]

した。そして締めは逍遥歌の大合唱でお開きとなりました。

懇親会終了後は分散して、すすきの街の散策に出かけられたようです。小生は、時川先輩、谷平先生のグループとはぐれ、同期の日野先生と旧交を暖めました。(土木・昭和50年卒、五洋建設(株))

## 昭和47年入学生30周年同窓会を終えて

吉村 喜代一

まだ工学部前の街路樹もない殺風景なキャンパスで、入学式はありましたが、学園紛争の終末期で7月まではほとんど授業もなく、同窓の顔を覚え始めたのは夏休み前でした。9月からの授業も工学部の井関問題で吹き飛んでしまい、まともな授業となったのは2回生からでした。「論」という単位もその時代のものでした。

その影響ではないでしょうが、37名の入学生が昭和51年18名、52年9名、53年9名卒業、(>!<)1名となりました。数年後、同窓会を催すことになり、自然と昭和47年入学生の顔が浮かんできてそのメンバーで始まりました。回を重ねてその節目(15年、20年、...)には先生方を招待してとは考えながら入学30年がすぎ、今回の同窓会となりました。

入学当時の助手の方々にお声をかけたところ、望月、山田、西垣、小田、小林、角野、山本の先生方がご参加して下さいました。同窓会は19名の参加があり、久しぶりに東京から来た人や沖縄から来た人など、いつもの同窓会とは違って学生時代や社会人としてのいきざまなどを語らった時間でした。ただ、この30年間に先立った尾崎、谷、梅田、岡嶋(旧早川)君の思い出とともに、今の厳しい時代の中で頑張る「元気」をもらった記念の集まりでした。

(土木・昭和51年・(株)ウエスコ)



## 応用物理学科

### 応用物理学科の近況

増岡 俊夫



卒業生の皆様いかがお過ごしでしょうか。大学もかつてない競争時代を迎えています。公立大学の独立行政法人化、大阪市の10%定員削減、21世紀COEプログラム(トップ30)、産学官連携促進など避けて通れない課題が山積しています。

応用物理学科では、21世紀COEの申請などに向けて約700ページにわたる各教員の詳細な研究活動データを冊子としてまとめ、研究のActivity、研究のインパクト、大学院教育のActivity、国際性、研究資金獲得への努力、産学連携への貢献度等の10項目について外部評価を行っている段階です。3月に物性制御工学分野の北田忠義先生が定年退職されました。長年にわたるご尽力に感謝いたします。その後任として電子物理工学分野に葉嶋茂喜助手が着任されました。氏はH14年3月に大阪大学大学院理学研究科物理系専攻後期課程を修了された若手です。現在「高強度テラヘルツ波光源の開発及び超高速ダイナミクス」の研究に取り組まれています。光物性工学分野の金大貴助手が10月1日付で講師に昇任されました。先輩の諸先生方(人見、笹沼、西村、美馬、藤井、北田)がここ数年の間に相次いで定年退職され、応物教員の大幅な世代交代が進みました。しかしH5年度には18名の教員が在籍しましたが、現在は13名、さらに大阪市の10%人員削減により近い将来総勢12名の教員が応物を担うことになり、学科の規模がますます小さくなっていますが、「山椒は小粒でもぴりりと辛い」をモットーに頑張っております。悲しいお知らせですが、名誉教授の小塩高文先生(原子力基礎研究所、応用物理学専攻兼任)が9月14日肺炎のため享年82歳で永眠されました。ご冥福をお祈りいたします。

今年度も、先の見えない不況は学生諸君の就職活動に苦渋を強いたようです。前期博士課程修了予定者は17名で、就職内定者は15名(学校推薦:9名、自由応募:6名)、後期博士課程への進学予定者1名です。また、4回生の卒業予定者は29名で、大学院進学予定者が21名(本学大学院:16名、他大学:5名)、就職内定者は6名(全員自由応募)です。求人件数はほぼ前年度並でしたが、状況の厳しい電気系メーカーをはじめとして各採用企業は、応募者の能力・適性を見極めて厳選している様子でした。最後になりましたが皆様の一層のご活躍、ご健康をお祈りいたします。

(工学研究科教授兼応用物理学科主任教授)

### クラス会便り

小林 深

13名の同級生、全国に散らばってしまい全員集まるのは5年に1度くらいであります。恩師の大東先生、東野先生と、中林、入江の両君が逝去されて一寸寂しいのですが、その寂しさを埋めるべく主として関西在住の会員が、毎年ウオ釣り会やっております。

場所は潮岬の串本、年々歳々、同じ宿で同じ釣り場で飽きもせず続けております。飽



きない理由は、宿のトトレ魚料理がまさに絶品で、飲んで騒いでの宴会が楽しいからなんです。オバン連からはオジンだけで楽しんでるのは不公平だとの声も聞こえてますが、ヤッパ宴会はパパ抜きでアホ云って騒いでる方が楽しいと云うバチ当たりが多いんです（イエ、お宅の御主人様が仰ったのではありませんので…夫婦ケンカなされませんように！）。

年に一度では足りない、実態はコトある毎に（ナクても）梅田界限に集まってしょっちゅう呑み会やっております。これ読んだ関西以外の諸兄から、それでは不公平だとお叱りの声が出てきそうなので、近々全員で集まる企画を致しましょう。

（応物・昭和35年卒）

## 30年過ぎた同窓会

和倉 慎治

我々応物45年卒の同窓会は、毎年開催されています。かくれ永久幹事の松田薫君（東京エレクトロン）の猷身的かつ、独断的リードによるものと感謝しています。

この不況の中でも各企業内で、みんなよくがんばっていますが、特に有名になった人も、今はやりのサラリーマンノーベル賞の話もなさそうです。もちろん拉致された者もなく、

平凡な飲み食い同窓会です。

亡くなられた大倉教授は我々の同窓会に度々出席下さいました。我々の入学時のクラス担任だったことからです。

思い出に残っているのは、追試験ならず「追授業」でした。学園紛争の時計台事件の年が我々の卒業の年でしたが、我々のクラスの卒論もそこそこでしたので、大倉先生が教えそこねた分を授業する、とおっしゃったのです。50歳のおっさん達は酒の場で正座して20分授業を聞かされたのですからたまりません。大倉先生はわざわざ人数分（15名ほど）ペーパーを用意されていたほどの熱の入った講義でした。

我々は同窓会を何回か杉本町駅前で行いました。ある時、大学内でも工学部同窓会の集いがあるということで、わざわざ日をあわせて開催したのです。きっと、大学内を散策して思い出に浸る人もあるだろうと企画したのですが、さにあらず、杉本町の駅前の店で全員アルコールに負けてしまいました。学生時代の杉本町の踏み切りを渡らずに帰るクセが出たようでした。

飲み食いだけの同窓会も楽しいものですが、今後は大学や在校生のメリットになるようなボランティア同窓会でも考えてみたいものです。（応物・昭和45年卒、(株)アサヒ電子研究所代表取締役）



## 情報工学科

### 情報工学科の近況

村田 正

情報工学科卒業生の皆様、初めまして。私は平成6年4月、本学に着任しました。当初は「基礎情報学研究室」という工学部共通でしたが、平成9年4月に情報工学専攻の大学院設置と共に「情報通信工学研究室」となり、教育・研究に従事させていただいております。情報工学科と

しては5番目の研究室で、第二期生から卒業研究の担当を行っております。また、平成11年度にも学科主任を仰せつかり、就職のお世話もさせていただきましたが、同窓会報では始めてのため、ご挨拶を書かせていただきました。

さて、平成14年4月、念願の「大学院工学研究科再編」が認可され、大学院が4専攻体制となりました。以前の「情報工学専攻」が「電子情報系専攻」という名前に代わり、学部の電気工学科、応用物理学科と情報工学科とが1つの大学院専攻となりました。同時に大学院の入学定員も変更となり、電子情報系の前期博士課程定員は45名となっています。後期博士課程への社会人入学も実施しておりますので、ご希望の方がございましたら是非ともお問い合わせを願います。

情報工学科の人事としましては、情報処理工学教授の岡本次郎先生が平成14年3月に定年で退職され、後任の教授として富士通研究所(株)から、鳥生隆先生が着任されました。また、大阪市の新行財政改革に従い情報工学科も従来の教員14名から12名へと減員しますが、教育・研究に支障がないように全員が協力して対応して行きます。

情報工学科の入学定員が22名に増員され、4年目となりましたので、卒業研究の研究室配属が5名ずつとなり、賑やかな雰囲気となっています。本年度の就職希望者が9名で、大学院前期博士課程の就職希望者10名と合わせて19名が求職者でした。当学科の就職事情は、昨今言われておりますIT不況や平成不況に拘わらず好況であり、本年度求人のために来訪いただきました方が100社以上あり、郵送の求人社を含めますと求人数が約500社以上で、他にはない「売り手市場」となっています。求人の職種は、以前のコンピュータが扱える人材から、SE(System Engineer)やSI(System Integrator)へとネットワーク構築技術の要求される方向に変化しつつあります。それに即した人材の養成が必要となっており、JABEEにも対応した教育と研究の充実に邁進したいと思っております。（工学研究科教授兼情報工学科主任教授）

## 『雑談から生まれるもの』

鵜飼 智宜



情報工学科の第一期生として卒業してから早や八年半がたちました。

卒業後は通信会社に就職し、猛スピードで発達する通信技術を追いかけていろいろな業務を担当してきましたが、ここ数年はそれらの知識や経験を生かし、新規サービスの立ち上げに携わっております。言うまでもありませんが、この新規サービス検討の際には

お客さまがどのような悩みを抱え、どのようなサービスを望んでい

るかを的確につかむとともに、それらの提供にどのような仕様の装置を導入するかが重要になってきます。そのためにはまず情報収集、ということになりますが、いくらインターネットが発達した時代とはいえ、お客さまや通信機器メーカーの生の声を聞くことがやはり一番だと私は思います。私の経験から言いますと、雑談からアイデアが生まれることも多く、ほとんどがそうではないかとさえ思えるくらいです。

残念ながら今まで一度も情報工学科同期生皆で集まることはありませんでしたが、今回の同窓会だより発行をきっかけにさまざまな業界へ進んでいった同期生たちと雑談に花を咲かせるのもいいかもしれないな、と感じています。

(情報・平成6年卒・㈱パワードコム)

## 生物応用化学科

### 生物応用化学科の近況

井上 英夫



卒業生の皆様にはお元気で活躍のことと思います。私は本年度の学科主任をしておりますが、大多数の卒業生は私のことをご存じないと思いますので、簡単に自己紹介いたします。生まれも育ちも札幌で平成11年3月まで北大薬学部勤務し、4月からこちらにお世話になって

おります(研究室:生物工業化学)。専門分野は生物有機化学で、核酸化学たとえば人工核酸の合成と新機能開発の研究を行っております。さて、昨年4月に当学科は立花太郎さんを迎えることができました。(研究室:生物情報工学)。立花さんは大阪府大工学部出身で阪大医学部に勤務されておりました。専門分野は分子細胞生物学で、動物細胞の機能解明とその人工的制御の研究を行っています。このように当学科は幅広い分野の教員構成となってきました。なお、最近では上記以外の教員の移動はありません。当学科関係では学生実験を見直し、今年度より化学系、生物系と分けて行っております。また、最近では入学者の女性の割合が増加傾向にあり、現1回生では24名中9名と華やいだ雰囲気(?)になっております。

大学院は今年4月に生物応用化学専攻と応用化学専攻が1専攻に統合され、化学生物系専攻となりました。修士の講義科目は3つの系(物質化学系、分子化学系、生物工学系)に分けられ、院生はそれぞれから所定の単位を取得する必要があります。担当教員も十数回の講義を行っており、院生にとっては、実験もしなくてはならず、大変なようですが、大学院教育の充実によって院生の皆さんが見聞を広め、実力をつけてくれるものと期待しています。宣伝になりますが、後期博士課程には勤務しながら学び、研究する社会人ドクターコースがあります。入学は春、秋の年二回で在学期間の短縮も可能です。

大阪市大は産学官連携を推進するために色々と企画し、実行しているところであります。私達の研究シーズが社会的に

活用されるよう、「もの作り」に直接、間接に携わっている卒業生の皆様には、ご助言、ご支援をいただければと思っております。明るいニュースがあまりない昨今、ノーベル賞受賞のニュースは、知的資源、財産で勝負をしなければならない我が国にとって、特に理工学関係者にとって大きな励みになったと考えられています。最後になりましたが、皆さんの今後の益々の発展をお祈りいたします。

(工学研究科教授兼生物応用化学科主任教授)

### クラス会について

五十嵐 幸一



生物応用化学科の3期生は、学生数が13人と非常に小さなクラスでした。従って、クラス会といった大げさな行事はありませんが、仲のいいメンバー7、8人が集まって飲み会を開いたりしています。やはり大人数が集まれるのは盆と正月位でしょうか。少人数であるにも関わらず、医薬品の研究開発から、印刷関係、電子材料、県庁、公認会計士まで卒業後の進路はまちまちで、お互いの仕事に関する話をするだけでもあっという間に時間が過ぎてしまいます。また、学生時代の思い出話などは何度話しても楽しく、いつも大いに盛り上がります。

最近では臨時のクラス会(?)も時々開催されるようになりました。それは結婚式です。我々もそろそろその年代に近づいたのか、既に約半数が結婚してしまいました。結婚式の2次会では我々学科の同期が幹事を引き受け、会場手配から案内状の送付、ゲームの企画、景品の買い出し等、みんなで手分けして準備しています。2次会はいつも大変好評で、次の機会を楽しみにしています。私を含めて残された独身者はあと4名、みんな自分が最後にはなりたくないなので必死に頑張っているようです。

以上、生物応用化学科3期生の近況報告です。

(生応化・平成8年卒、生物応用化学科助手)

## 環境都市工学科の近況

山田 優



学科開設から4年目になり、1期生が卒業します。卒業予定者14名、うち4名が就職、10名が院進学希望です。一方、大学院再編で誕生した都市系専攻で、本学科教員担当の環境都市工学講座には、他大学出身も含めて22名が入学し、今後これら院生の進路指導が重要となります。

また、教員12名のうち最年長で、開設時と3年目の2度も主任を務め、新学科創設・工学部再編で苦勞された土井教授が、定年により1期生とともに来年3月卒業されます。その1年後、小田教授も、ということで、開幕をゆっくりと楽しむ間もなく、第二ステージを迎えます。

学科の設立理念、各分野がめざす教育研究については、昨年、土井前主任が紹介しました。今回は、少し具体的に、1期生が取り組んでいる卒研テーマを紹介します。

- ①環境都市計画分野：環境都市づくりにおけるみどりの保全と創出、京町家再生による街区レベルでの環境負荷軽減、環境負荷軽減に配慮した密集市街地の防災性向上策（土井、赤崎、中村が指導）
- ②環境水域工学分野：沿岸環境政策、湿地の水質浄化機能、人工干潟の地形変化と生物相、浮遊バイオマスの現存量と凝集捕捉法（小田、矢持、重松が指導）

- ③地域環境計画分野：ストリートキャニオンの放射伝熱解析、集合住宅の電気エネルギー消費特性、屋上緑化材の蒸発特性（三木、西岡、鍋島が指導）
- ④都市リサイクル工学分野：下水処理場における環境ホルモン物質の挙動、合流式下水道越流水中の大腸菌の不活化、泥土の粒状化実験、泥土粒状化物による透水保水性路盤（山田、貫上、西が指導）

最後に、学内外の協力を得て継続開催しています「大阪熱冷まし研究会」について紹介します。どなたでもお気軽にご参加いただけます。

第1回：2001年11月8日、「大阪のヒートアイランド現象」市環境都市局光岡和彦氏、市立環科研榎本慶子氏、「大阪はなぜ暑い」本学科三木信博氏

第2回：2002年4月2日、「保水性舗装の熱冷まし効果」本学科西岡真稔・鍋島美奈子氏、「熱環境改善エネルギーシステム」機械工学科西村伸也氏、その他

第3回：2002年10月17日、「遮熱性舗装の開発」日本舗道吉中保氏、「同舗装の効果測定」本学科西岡真稔氏

第4回：2002年12月12日、ハンブルグ大学ライトル先生による特別講演を予定、多数のご来聴を歓迎します。

(工学研究科教授兼環境都市工学科主任教授)

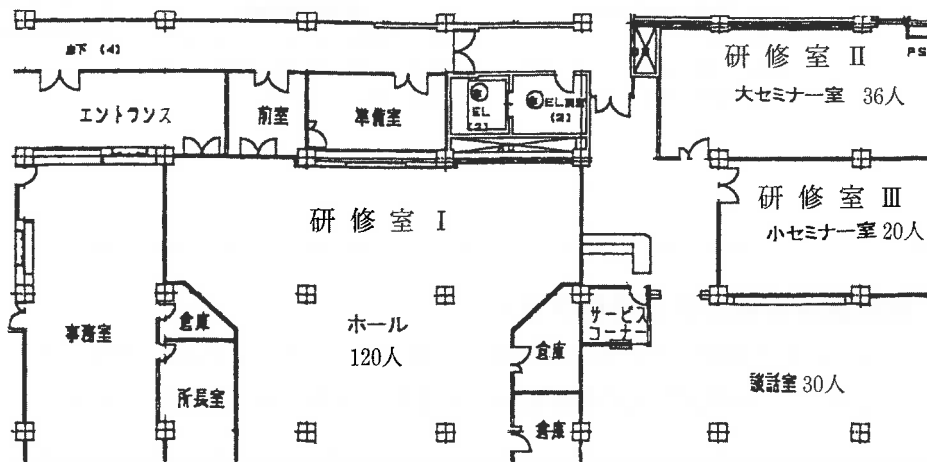
## 大阪市立大学文化交流センターが新装オープン

大阪駅前第3ビルにあった母校の文化交流センターは、大阪駅前第2ビルの6階へ移転し、平成14年4月1日に新装オープンしました。

そして、本学卒業生であれば、従来からの談話室のみならず、セミナー室やホールも利用出来るようになりました。

さらに、談話室では出前注文の飲食ができるようになり、その閉室時刻も午後10まで延長されました。

ご利用の際は、同センター事務室（電話：06-6344-5425）にお申込下さい。



事務局年報 (2001・12～2002・11)

2001年 (平成13年)

12月：会報第17号を発送(14日)。市大広報第46号を学外の理事・評議員及び大学院生評議員に配布(20日)

2002年 (平成14年)

1月：新保・志野両監事の会計監査(23日)。第15期第3回理事会にて、第13回評議会の議案を検討・決定(25日)。

2月：杉本キャンパスにて第13回評議員会を開催、第15期1年目(2001年度)の経過と収支決算報告、第15期2年目(2002年度)の新理事会役員・事業計画・予算を決定。その後、第4回キャンパス交流会(講演・懇親)を開催、招待恩師9名と同窓生103名が集う(16日)。

3月：2002年度新入生への当会の案内・会則・会費払込み要請書等の配布を教務係に依頼(8日)。第13回評議会欠席者に報告を送付(12日)。工学部・工学研究科送別式に会長代理の中田副会長及び理事有志が出席。「鏡割り」は本年も中止(25日)。

4月：大阪国際会議場にて2002年度入学式(5日)。杉本キャンパスで開催の、同窓会連合会主催第1回ホームカミングデーに、当会から行藤会長、廣岡前会長及び理事有志を含む約50名の会員・家族が参加(20日)。

5月：市大広報第47号を学外の理事・評議員、及び大学院生評議員に配布(10日)。

6月：第111回市大ポト祭にアドバルーンの掲揚で協賛(1、2日)。第15期第4回理事会にて、藤澤政夫(土木・昭和38年卒)氏の副会長就任を承認、「連合会による同窓会費の統一徴収への反対」を決定(4日)。

7月：未納終身会費の第1回督促状を発送、第1回財務委員会にて資産の管理・運用を検討(9日)。第1回同窓会連合会役員会で「市大5同窓会の統一」を論議(17日)。

8月：第1回編集委員会で会報18号からの改正事項を決定(8日)。工学部学術情報交流センター夏期休館(13～17日)。市大広報第48号を学外の理事・評議員、及び大学院生評議員に配布(25日)。

9月：定年恩師に同窓会報第18号へのご寄稿を依頼(5日)。

10月：会長・名誉会長・主任他に会報第18号の原稿を依頼(16日)。第1回行事企画委員会で「第14回評議会・同窓懇親パーティー2003」の日時・会場・トーク依頼者案等を決定(18日)。

11月：第15期第5回理事会で「行事企画委員会案」を了承(8日)。大阪市立大学同窓会愛知支部総会に人見理事が代理出席(12日)。

(1)第15期第1年度(2001年1月～12月)収支決算報告

(イ)経常費収支決算表(円)

| 収    |            | 支    |            |
|------|------------|------|------------|
| 終身会費 | 6,070,000  | 会議費  | 204,217    |
| 預金利息 | 124,585    | 行事費  | 221,903    |
| 雑収入  | 10,000     | 会報   | 1,613,845  |
| 前期繰越 | 8,068,304  | 協賛費  | 211,190    |
|      |            | 渉外費  | 50,670     |
|      |            | 通信費  | 235,444    |
|      |            | 事務局費 | 2,555,184  |
|      |            | 備品費  | 404,292    |
|      |            | 基金積立 | 500,000    |
|      |            | 次期繰越 | 8,276,144  |
| 合計   | 14,272,889 | 合計   | 14,272,889 |

(ロ)貸借対照表(2002年12月末、円)

| 借    |            | 入     |            |
|------|------------|-------|------------|
| 振替口座 | 83,144     | 累計剰余金 | 8,068,304  |
| 普通預金 | 4,771,670  | 当年剰余金 | 207,840    |
| 定期預金 | 49,588,353 | 特別基金  | 71,105,123 |
| 有価証券 | 24,938,100 |       |            |
| 合計   | 79,381,267 | 合計    | 79,381,267 |

(2)第15期第2年度(2002年1月～12月)理事会役員

3人目の副会長に藤澤政夫(土木・昭和38年卒)氏が就任(6月4日付)。その他は第1年度(2001年度)と同じ。

(3)第15期第2年度(2002年1月～12月)事業計画

(イ)第13回評議員会開催と第14回評議員会の企画。

(ロ)会報第18号の12月上旬発行・配布。

(ハ)各評議員会当日の会員相互の横断的交流と親睦の促進。

(ニ)工学部・全市大行事及び事業への協力。

(ホ)市大ホームページの同窓会欄への当会ページの開設。

(4)第15期第2年度経常費予算(円)

| 収    |            | 入    |            |
|------|------------|------|------------|
| 終身会員 | 5,700,000  | 会議費  | 230,000    |
| 預金利息 | 5,000      | 行事費  | 250,000    |
| 雑収入  | 5,000      | 会報   | 1,650,000  |
| 前期繰越 | 8,276,144  | 会員名簿 | 150,000    |
|      |            | 協賛費  | 300,000    |
|      |            | 渉外費  | 50,000     |
|      |            | 通信費  | 280,000    |
|      |            | 事務局費 | 2,500,000  |
|      |            | 備品費  | 250,000    |
|      |            | 次期繰越 | 8,326,144  |
| 合計   | 13,986,144 | 合計   | 13,986,144 |

工学部の電話番号[06-6605-(下記番号)] (2002.10.1.現在)

| 機械工学科      | 電気工学科      | 応用化学科         | 建築学科       | 土木工学科      | 応用物理学科        |
|------------|------------|---------------|------------|------------|---------------|
| 野邑 奉弘 2663 | 鈴木 裕 2676  | 小槻 勉 2693     | 谷池 義人 2764 | 小林 治俊 2173 | 中山 正昭 2739    |
| 西村 伸也 2664 | 南 繁行 2760  | 澤井圭二郎 2694    | 木内 龍彦 2706 | 角掛 久雄 2723 | 溝口 幸司 2174    |
| 伊奥田浩志 2963 | 武智 誠次 2677 | 五百井正樹 2977    | 谷口 徹郎 2707 | 北田 俊行 2734 | 金 大貴 3087     |
| 東 恒雄 2666  | 志水 英二 2678 | 小澤 文幸 2884    | 坂 壽二 2708  | 山口 隆司 2765 | 中山 弘 3088     |
| 加藤 健司 2665 | 高橋 秀也 2679 | 南 達哉 2980     | 谷口与史也 2709 | 松村 政秀 2735 | 福田 常男 2738    |
| 脇本 辰郎 2965 | 重田 和夫 2761 | 片山 博之 2885    | 那谷晴一郎 3076 | 高田 直俊 2724 | 細田 誠 2742     |
| 南齋 征夫 2667 | 青笹 正夫 2680 | 三浦 洋三 2798    | 西岡 利晃 2992 | 東田 淳 2725  | 曾我部 伸 2740    |
| 吉岡 真弥 2967 | 草間 稔 2681  | 圓藤紀代司 2697    | 梅宮 典子 2710 | 大島 昭彦 2996 | 菜嶋 茂喜 3089    |
| 川上 洋司 2668 | 田中 健司 2975 | 米澤 義朗 2770    | 大倉 良司 2711 | 日野 泰雄 2730 | 増岡 俊夫 2879    |
| 佐藤 嘉洋 2670 | 松下 賢二 2792 | 辻 幸一 3080     | 杉山 茂一 2176 | 内田 敬 3099  | 小林 中 3095     |
| 脇坂 知行 2671 | 中川 吉郎 2878 | 米谷 紀嗣 2984    | 藤本 益美 2989 | 吉田 長裕 2731 | 中村 勝弘 2768    |
| 瀧山 武 2672  | 宮崎 大介 2877 | 山田文一郎 2797    | 徳尾野 徹 2713 | 角野 昇八 3078 | 寺井 章 2748     |
| 高田 洋吾 2970 | 辻本 浩章 2685 | 松本 章一 2981    | 難波 和彦 2199 | 鬼頭 宏明 3050 | 加藤 岳生 2904    |
|            | 村治 雅文 2976 | セカンドパルサー 2189 | 中谷 礼仁 2714 | 麓 隆行 2780  |               |
| 情報工学科      | 生物応用科学科    | 知的材料工学科       | 環境都市工学科    | 共 通        | 事務室等          |
| 濱 裕光 2772  | 井上 英夫 2782 | 福田 武人 2660    | 土井 幸平 2715 | (応用数学)     | 学務係 2653      |
| 柳原 圭雄 2773 | 笠井 佐夫 2783 | 逢坂 勝彦 2962    | 赤崎 弘平 2717 | 多羅間茂雄 2669 | 同 2651        |
| 前川 義治 2763 | 北村 昌也 3091 | 高坂 達郎 2182    | 中村 仁 2716  | 串部 宏之 2747 | 学情サブセンター 2657 |
| 鳥生 隆 2684  | 大嶋 寛 2700  | 元木 信弥 2661    | 三木 信博 2993 | 鈴木 広隆 2712 |               |
| 平井 誠 2683  | 東 雅之 3092  | 山崎 友裕 2181    | 西岡 真稔 2718 | (機械工作室)    |               |
| 中島 重義 3096 | 五十嵐幸一 2699 | 大島 信夫 2961    | 鍋島美奈子 2719 | 若林三記夫 2969 |               |
| 辰巳 昭治 2688 | 玉垣 誠三 2695 | 橋本 敏 2673     | 小田 一紀 2732 |            |               |
| 北村 泰彦 3081 | 長崎 健 2696  | A・ビノグラドフ 3049 | 矢持 進 2175  |            |               |
| 藤原直賀人 2689 | 東 秀紀 2168  | 兼子 佳久 2179    | 重松 孝昌 2733 |            |               |
| 岡 育生 2779  | 山内 清 2703  | 森 雄造 2743     | 山田 優 2727  |            |               |
| 阿多 信吾 2191 | 田辺 利住 3094 | 金崎 順一 2741    | 貫上 佳則 2728 |            |               |
| 村田 正 2795  | 立花 亮 2702  | 近藤 孝文 2194    | 西 元央 3048  |            |               |
| 杉山 久佳 2796 | 荻野 健治 2799 |               |            |            |               |
| 辻岡 哲夫 2192 | 立花 太郎 2167 |               |            |            |               |

平成15年評議員会のお知らせ

前略 評議員各位には当会のために、色々のご協力頂き誠に有り難うございます。

さて、来春、第14回評議員会(平成15年度評議員会)を、下記の通り開催致します。ご多忙とは存じますが、万障お繰り合わせの上ご出席下さいますようお願い致します。

記

日 時：2003年(平成15年)2月18日(火)

午後5時30分～6時20分

会 場：新阪急ビル12階スカイルーム

(会場の詳細は20頁を参照下さい)

なお、後日、案内状・返信ハガキをお送り致しますので、ご協力の程宜しくお願い致します。

2002年12月 会長 行藤 三男

編集後記

2002年もはや師走となりましたが、わが国の経済は今年もデフレの出口さえ見つかりませんでした。

さて、ご覧の通り、本号から会報の紙面をA4版にすると共に、表紙絵に会員の絵画を掲載するため、表紙と裏表紙をカラー印刷に致しました。本号の表紙絵は、森幹雄(建築・昭和48年卒)氏にお願いしてご提供頂いた原画を約36%に縮小して掲載致しました。

さらに、従来の会報短信も、全て「クラス会や同期会の便り」に変更し、各クラスの親睦促進の参考にして頂くことに致しました。次号以降では、卒後10年、20年、30年……等の節目を迎えるクラスに投稿を依頼することを考えておりますので、ご協力をお願い致します。

今春は、岡本次郎(情報)先生と北田忠義(応物)先生が、目度くご定年をお迎えになり、岡本先生にご寄稿頂きました。なお、裏表紙に記載の通り、来春2月18日(火)には、新阪急ビルにて「同窓懇親パーティー2003」を開催致しますのでお誘い合わせの上、ご参加ください。

では、良いお年をお迎え下さい。

(N. Y. 生)

編集委員

○山口南海夫(電気・昭和44年卒) 増岡俊夫(応物・昭和38年卒)  
 △大嶋 寛(応化・昭和49年卒) 村治雅文(電気・昭和62年卒)  
 南齋 征夫(機械・昭和39年卒) 大島昭彦(土木・昭和55年卒)  
 赤崎 弘平(建築・昭和45年卒) 人見宗男(機械・昭和31年卒)

(但し、○：委員長、△：副委員長)

# 工学部同窓会の集い 同窓懇親パーティ2003

来春、“同窓懇親パーティ2003”を、下記の通り開催致します。

当日は、山田文一郎工学研究科長兼工学部長に母校の近況をお話いただき・俳優の金田龍之介先輩にもショート・トークをお願いしています。さらに、定年恩師にもご臨席願う予定です。クラスメート、同期生、職域の同窓生等をお誘い合わせの上ご出席下さい。特に、ミニ・クラス会や、ミニ職域会としての参加も大歓迎です。

## 記

★日 時：2003年2月18日(火曜日)、午後6時30分～8時30分

★会 場：新阪急ビル(12階) スカイルーム

大阪市北区梅田1-12-39

(TEL：06-6345-4127)

★会 費：7000円(当日会場にて受付)

申込方法：1) 連絡事項：①氏名、②学科(専攻)名、

③卒業(修了)年、

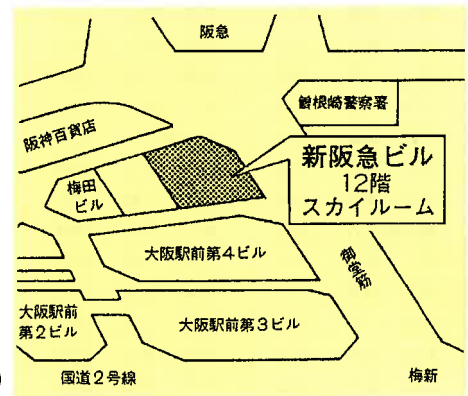
④ご住所(連絡先)、⑤TEL(FAX)

2) 方法：ハガキ、またはFAX(06-6605-2769)

3) 期日：2003年2月8日(土)

申 込 先：〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

大阪市立大学工学部同窓会 事務局



(第4回キャンパス交流会の懇親会)



(同左の講演会)